

みやぎの多文化な人 宮城県内で活躍している海外出身者をご紹介します。

Passport to the world 東北大学国際祭り



アヴィン シャルマさん

インド共和国出身
東北大学留学生協会(TUFSA)代表
仙台市在住

—インドのどちらで生まれ育ったのですか。

生まれたのはインドの西北部パンジャブ州ですが、育ったのは西部のグジャラート州です。私は公用語のヒンディー語、英語(準公用語)のほかに、生まれ育った州の公用語であるパンジャブ語、グジャラート語も話します。食べ物にも地域性があり、パンジャブのカレーは辛いのにに対し、グジャラートは甘めです。主食のチャパティーの厚さも違ったりします。個人的には、カレーはパンジャブの辛いものの方が好きですね。

—日本での生活はいかがですか。

父が日本の文化に興味があったので、日本には一度家族で旅行に来たことがあります。それで「実際に暮らしてみたい」と思うようになったのが、日本に留学を決めた一因です。

今年で日本に来て3年目ですが、来日したばかりの頃は食事やことばの面で苦労しました。母国を離れてはじめて一人で暮らす中で寂しさを感じることもありましたね。次第に日本人・留学生を問わず友人が増えたことで困った時は助け合えるようになり、今では楽しく生活しています。時々母の作ったカレーが食べたくなることもあります。日本の料理も好きで、しょうが焼きや日本風のカレーも作ったりします。

日本語を勉強始めて4年になりますが、まだまだ勉強が必要だと思っています。早口で話されたりすると聞き取れないこともありますし、知らないことばもたくさんあります。最近は「かわいい～」という表現や、「とりあえず生で!」といった言い回しを生活の中で覚えました。

日本で印象的なことは、「おもいやり」が感じられる場面が多いことです。道にあまりごみが落ちていないですし、エスカレーターもきちんと並んで乗りますよね。それは他の人へのおもいやりがあるからではないかと思っています。

—大学では何を勉強していますか。

宇宙・機械工学を学んでいます。今は学部で3年生ですが、博士課程に進んで学びを深めたいと思っています。将来的にはエンジニアとして、日本での就職を希望しています。オフィスでのデスクワークよりも、手を汚しながらロボットをつくるような仕事をしたいです。

—留学生と日本人学生の国際交流を中心に活動するTUFSA(東北大学留学生協会)の会長を務めていますね。

2023年の東北大学国際祭りにボランティアとして参加したことがきっかけで、TUFSAのメンバーになりました。毎月1～2回、国際交流のイベン



Water color festivalの様子

トを行っています。最近では7月に「Water color festival」という、色とりどりの染料を塗りあったり、水風船や水鉄砲などで水遊びをするイベントを行いました。もともとなったのはインドの「春の訪れを祝う祭り」で、花を乾燥させて作った染料を塗りあうことで、人生が彩り豊かになるとされています。本当なら春に行うものですが、水を使うには寒いので夏のイベントとして行いました。今年は40人の参加があり、とても盛り上がりしました。

—東北最大級の国際交流イベントといわれている東北大学国際祭りを10月に開催するそうですね。

国際祭りは国内外から集まった東北大学の学生たちが協力して運営するもので、10月12日の開催に向けて実行委員会の25人が中心になって準備しているところです。メンバーはそれぞれ大学の試験があって忙しく、思うように活動できない時もありましたが、夏休みに入ったのを期にミーティングを再開し、準備を加速させていきたいと思っています。ボランティアを100人集めたいのですが、まだ40人ほどの応募しかなく、今まで以上に広報に力をいれる必要があるなど、やるべきことはまだ多く残っています。

今回の国際祭りでは、バングラデシュ、ベトナム、タイ、ベネズエラ、カンボジア、インドなど9つほどの屋台が各国の料理などを提供する予定です。インドの屋台では友人たちがクレープに似た南インドのドーサと、北インドのラッシーを用意しています。文化紹介を行うインタラクティブコーナーは6つほど出展します。タイのコーナーではセパタクローというスポーツを実際に体験して楽しむことができます。特設ステージでは、様々な国の歌や踊り、コメディ・調の寸劇の発表を行います。留学生出身国の発表だけではなく、落語や仙台すずめ踊りなど、日本や、仙台の文化の発表もあります。今回の国際祭りのテーマは「世界への切符/Passport to the world」です。東北大学関係者だけではなく、地域のみなさんも、ぜひこの祭りで、様々な国の料理や文化に直に触れ、国際交流を楽しんでいただけたら嬉しいです。

(8月6日取材)

■第37回東北大学国際祭り

日 時:2025年10月12日(日) 11:00～16:00

会 場:東北大学百周年記念会館(川内萩ホール)前

入場料:1,500円(フードチケット3枚つき)※当日会場で購入できます。

「国勢調査2025」

5年に一度の国勢調査が10月1日を期日として実施されます。外国人を含めた日本に住む全ての人と世帯が対象で、国内の人口や世帯の実態を明らかにするために行われる大切な調査です。結果は、生活環境の改善や防災計画の立案など、生活に欠かせない様々な行政施策に役立てられます。国勢調査はインターネットもしくは郵送で回答することができます。

外国人向けには全28言語に対応する「外国語サポートページ」があり、国勢調査の目的や答え方についてわかりやすく説明しています。また、わからないことがある場合は、国勢調査コンタクトセンターに問い合わせれば通訳を介して専門スタッフが対応します。

総務省統計局 外国語サポートページ

<https://www.kokusei2025.go.jp/language/>



国勢調査コンタクトセンター(11月7日まで)

TEL:0570-02-5901(午前9時～午後9時まで)

IP電話・プリペイド携帯電話からは:

TEL:03-6628-2258

※電話をかけるためのお金がかかります。



国勢調査は外国人の方も含め、全員参加の調査です!

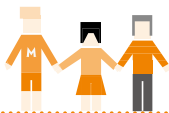
令和7年10月1日を期日として国勢調査が実施されます。

国勢調査は統計法に基づき、5年に1回行われる、外国人の方も含むすべての方に回答の義務のある国の最も重要な調査です。

事業者の皆様、教育機関のご担当者様へ

所属の外国人の方に、調査について回答義務があること、回答した個人情報統計法によりしっかりと保護されることをお伝えいただき、回答促進へのご協力をお願いいたします。

詳しくは直観へ



シリーズ 外国につながる子どもたちの支援について考える



第16回 保護者とのコミュニケーションについて

外国につながる子どもが在籍する学校の先生から「保護者とのコミュニケーションに困っている」というお話をよく聞きます。考えられる理由はふたつ。ひとつは保護者が日本語を十分に読み書きできないことです。学校からのおたよりや書類の内容を理解することができず、結果として提出を求められている期日を守れなかったり、支払いが滞ったりといった不具合が生じてしまいます。もうひとつは、保護者が日本の学校の制度、システム、慣習を知らないことに起因します。運動会がない国から来た人々には、そもそもそれがどんなイベントなのか、家族も見にくいものなのか、お弁当を持っていかなくてはいけないのか、土曜日なのに子どもを行かせなくてはならないものなのか、わからないということがあります。放課後の掃除のことを知った保護者から、「うちの子どもに掃除をさせるとはどういうことなのか」と気色ばまれた例もあります。その方の国では、学校の掃除は業者がやることであって、子どもがすることではないとのことでした。そのほか、上靴、持ち物の名前シール、制服、体操着、欠席時の学校への連絡、身体測定、給食、遠足、修学旅行の積み立てなどなど、日本の学校ではごくごく当たり前とされていることが、外国人にとっては必ずしもそうではなく、そのことをなんとかして保護者に伝え、理解を得ることが求められます。

より深刻なのは、子どもの進学に関することです。国によっては高校までは無試験で行けることもあり、日本の高校入試について親子ともに知識、理解を欠いたまま受験期を迎えることは、親子のみならず、学校にとっても望ましいことではありません。

転入時の市町村教育委員会での保護者対応、学校における保護者面談、三者面談など日本語だけでは十分なコミュニケーションが図れないことが考えられます。ですので、通訳を活用することが望ましいでしょう。母語で伝えることで、誤解なく正しく理解してもらえますし、日本語ではなかなかうまく表現できない保護者の考えを知ることもつながります。

通訳の活用については、仙台市内の小中学校であれば仙台観光国際協会、仙台市以外の宮城県内の小中学校や県立高校であれば、MIAにご相談ください。(宮城県国際化協会(MIA)作成)

「みやぎ外国人相談センター」から

Q 最近日本に来ました。最寄りの市役所で転入の手続きをしたところ、国民年金加入の手続きをするように言われました。外国人の私も国民年金に加入しなければいけないのでしょうか。

A 日本に住む外国人は、会社などを通して厚生年金に加入しない場合、国民年金に加入し、保険料を納付する必要があります。保険料の支払いを行わない場合、将来の年金の受け取りや在留資格に影響がでることがあります。年金制度について知りたい場合は「ねんきん加入者ダイヤル」にご相談いただくか、日本年金機構のウェブサイトをご覧ください。

ねんきん加入者ダイヤル TEL:0570-003-004

※050で始まる電話番号からかける場合は、TEL:03-6630-2525

【受付時間】

〈英語〉月曜日/8:30-19:00 火曜日～金曜日/8:30-17:15 第2土曜日/9:30-16:00

〈それ以外の言語〉月曜日～金曜日/8:30-17:15

【対応言語】

英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語、ベトナム語、インドネシア語、タイ語、ネパール語、ミャンマー語

日本年金機構ウェブサイト

<https://www.nenkin.go.jp/international/index.html>

年金について多言語で解説したパンフレットや動画を見ることができます。

みやぎのふるさとふれあい事業のご報告



この事業は、留学生等県内在住の外国人に地域のお祭りやイベントに参加してもらい、伝統文化の体験やホームステイなどを通じて、地域住民と交流することで相互理解を深めてもらうことを目的としています。

今年度予定されている当事業のうち、登米市の佐沼夏祭り(六月祭)へ参加するプログラムが7月26日に実施され、8か国10名の外国人が地域の人々との交流を楽しみました。大勢の観客を前にハッピー姿でおみこしを担いで商店街を練り歩くというも普段はなかなかできない体験で、参加者の皆さんに大変好評でした。

今年は引き続き利府町、美里町、石巻市、村田町でも開催します。かつてはコロナ禍の影響で実施数も落ち込みましたが、おかげさまでこのように開催できる市町が増えてきました。これからも当事業が宮城の外国人と地域の皆さんにとってよい交流の機会となるよう願っています。

参加者から**カンボジア出身留学生**

地域に根差した伝統行事に触れてみたいと思い参加しました。地元の方との交流が楽しく、とても貴重な経験ができました。豪華なお弁当も美味しかったです。



今年の登米市でのプログラムに参加する外国人の皆さん

宮城県9.1総合防災訓練に参加しました



宮城県9.1総合防災訓練が、8月31日(日)丸森町を会場に行われました。訓練は、宮城県南部を震源とするM7.2と推定される地震が発生し、丸森町では最大震度6強の強い揺れを観測したことを想定したものでした。町が2年前に開設した「まるもり日本語ひろば」で活動している日本語交流サポーター6名と、インドネシア、ベトナム、フィリピン出身の10名の外国人住民が参加し、避難所の受付や段ボールベッドの組み立てなどを体験しました。また、外国人住民への各訓練の説明をMIAから派遣した災害時通訳ボランティアがそれぞれの母語で行いました。参加者のひとり、ベトナム出身のレーさんは、「ベトナムには地震がなく、わたしも経験がないので、今日学んだことをこれから実践し、備えたいと思いました。」と感想を述べていました。



みやぎの国際活動団体

東松島市国際交流グループknot(ノット) 代表 岩崎 未知さん

knotは、国籍・文化・言語の違いを超えて、地域の中で自然な国際交流を生み出し、相互理解と多文化共生を促進することを目的に、2024年8月に設立されました。

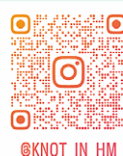
月2回コミュニケーションを重視した日本語レッスンを行っています。前半に学習者と支援者が一対一で日本語のレッスンを行った後、複数の日本人とお話する時間を設けています。また、オンラインでの交流会を月1回、対面での交流会も数カ月ごとに行っています。次の市民向けのイベントでは、日本語レッスンで学んでいるフィリピン人学習者が講師となり、フィリピンの文化の紹介をするなど、メンバーの個性を生かして活動しています。

11月には子どもと外国人住民が交流するイベントを開催する予定です。外遊びやゲームなどを一緒に楽しむことで、つながりをつくれたらと思っています。県内に在住する方でしたらご参加頂けますので、ご興味のある方はお問い合わせ下さい。

■問い合わせ: more1live.more1dream@gmail.com

また、Instagramで積極的に情報を発信していますので、日々の活動の様子をのぞいてみてください!

アカウント名: knot_in_hm



小さな子どもから大人まで幅広い世代のメンバーで活動中!

サポーターの声

日本語サポーター 長谷川 さち子さん

今年5月下旬から、母国の中学校を卒業後に来日した石巻在住の16歳のネパール人男性の、高校受験に向けた日本語学習のサポートをしています。彼ははじめとても緊張していましたが、今ではわからないことは質問したり、自分で調べたりして積極的に学習に取り組んでいます。来日して全く違う環境に身を置くことになったにも関わらず、私との活動を一度も休んだことはないんです。とてもすごいことですし、だからこそ私にできることはできるだけしてあげたいと思っています。

彼は私のサポートの他に MIA 日本語講座や外国人の子どもの支援団体、石巻の団体でも日本語を学んでいて、各団体の関係者と彼を支援するチームとして情報共有・連携をしています。チームのメンバーはみなさん経験が豊富な方々ですが、私は友人のような立場で、勉強でもそれ以外のことで気軽に聞けるような存在として関わっていきたくと思っています。

今はあまり歳の近い子たちとの接点がないようなので、彼には高校に入って同年代の友だちをつくり、勉強や部活動など好きなことに思いっきり打ち込んで欲しいですね。そのためにも、今は受験に向けて一緒に駆け抜けていきたいと思っています。



サポート活動の様子

賛助会員募集

MIA(公財)宮城県国際化協会は、県民参加の幅広い国際交流を進め、人と人との輪を広げていくために、皆様の御理解と御協力を求めています。



●賛助会員の資格

本協会の趣旨に賛同し、運営活動に協力していただける個人や団体(国際活動団体、企業、機関)など

●賛助会員の区分と年会費

個人会員/1口 3,000円
団体会員/1口 10,000円

●賛助会員の特典

◎協会機関紙 宮城県国際化協会機関紙
倶楽部MIAの定期送付(年4回)

◎当協会主催のイベントや各種講座の案内及び参加費の減免

◎個人会員については協会と提携する旅行会社が指定する国内外の旅行代金の一部割引

◎企業会員については世界各国国旗の無償貸し出し、及び当協会の外国人スタッフ等による国際理解出前講座の無償提供

●入会方法

◎本協会にて御連絡ください。

所定の申し込み用紙と振り込み用紙を送付いたします。



倶楽部 MIA vol.140

編集・発行
公益財団法人 宮城県国際化協会
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号
宮城県仙台合同庁舎7階
TEL 022(275)3796
FAX 022(272)5063

E-mail mail@mia-miyagi.jp URL https://mia-miyagi.jp

